

2025 6月

鷹栖町図書室に新しくいった本 (5月分より)

☆新しくいった本は他にもございます。図書室では新着図書のリストを配布しております。また、鷹栖町図書室の蔵書検索から探すこともできます。



たかす(一般)

『亡霊の鳥』(阿部智里/文藝春秋)
『世界99上下』(村田沙耶香/集英社)

『腕が鳴る』(桂望実/祥伝社)
『世界の終りの最後の殺人』(スチュアート・タートン/文藝春秋)
『熱狂的なファンを生み出す「世界観」のつくり方』(イジヒヤン/日本実業出版社)
『有名人の死に心がゆらいだら』(高橋あすみ/大修館書店)
『70歳のバックパッカー』(下川裕治/産業編集センター)
『母親になって後悔してる』(オルナ・ドーナド/新潮社)
『日本のクラフトビール巡り』(ビアEXPO運営事務局/リトルモア)

『流水の果て』(一雫ライオン/講談社)
『潮音 第3巻』(宮本輝/文藝春秋)
『百一歳。終着駅のその先へ』(佐藤愛子/中央公論新社)
『実はおもしろい古典のはなし』(谷頭和希/笠間書院)
『父が牛飼いになった理由』(河崎秋子/集英社)
『本を読むように人を読む』(ぱとりっく・キング/KADOKAWA)
『大阪・関西万博公式ガイドブック』(2025年日本国際博覧会協会)

たかす(児童)

『いぬのずかん』(大森裕子/白泉社)
『きょうはやまに』(ハダタカヒト/講談社)

『バルバルさんとおさるさん』(西村敏雄/福音館書店)
『あの子を自由にするために』(アン・クレア・レゾット/岩波書店)
『マインクラフト自分でできるおかたづけ』(吉川永里子 監修/KADOKAWA)
『イチからつくるピザ』(小田原学編/農山漁村文化協会)

『だいじょうぶ、ここにいるよ』(宮野聡子/教育画劇)
『あたらしいともだち』(いもとようこ/世界文化ワンダーグループ)
『あいことばはあらしのよるに』(あべ弘士/講談社)
『テントウムシみつけ!』(里中正紀/徳間書店)
『ちきゅう一家が、おじゃまします。』(トナミゲン/Gakken)
『見るのが楽しくなる目のひみつ』(今泉忠明監修/創元社)

きたの(一般)

『問題。』(早見和真/朝日新聞出版)
『ブレイクショットの軌跡』(逢坂冬馬/早川書房)

『シルバー川柳 笑いの万博編』(みやぎシルバーネット/河出書房新社)
『フクシマ、能登、そしてこれから』(藍原寛子/婦人之友社)
『不登校のはじまりからおわりまで』(齊藤万比古 監修/日東書院本社)
『オーバードーズ』(川野由起/朝日新聞出版)
『外国語学習に成功する人、しない人』(白井恭弘/岩波書店)

『歌舞伎町ララバイ』(染井為人/双葉社)
『別れ道の二人』(赤川次郎/双葉社)
『アラフォー独女、-58kgして人生が変わりました。』(松坂ゆう/Gakken)
『58歳、旅の湯かげんいいかげん』(ひうらさとる/扶桑社)
『テレビプロデューサーひそひそ日記』(北慎二/三五館シンシャ)
『原田マハのポスト印象派物語』(原田マハ/新潮社)
『CHECK&STRIPE her closet』(CHECK&STRIPE/主婦と生活社)

きたの(児童)

『ぷ』(たなかひかる/金の星社)
『びんのなかのゆめ』(デボラ・マルセロ/光村教育図書)

『サメのイエニー』(リーサ・ルンドマルク/岩波書店)
『自分ゴトとして考える難民問題』(日下部尚徳/岩波書店)

『ママのおくちチャック!』(さいとうしのぶ/KADOKAWA)
『まてないの』(ヨシタケシンスケ/ブロンズ新社)
『「あな」の本』(ロバート・メガンク/フレーベル館)
『ミハイルのハーモニカ』(高橋良子/文研出版)
『にっぽんのクマ』(山崎晃司 監修/カンゼン)

ほか

～鷹栖町図書室の本はふるさとまちづくり応援寄附事業の寄附金を活用して購入しています～

図書室だより

★8月3日(日)は夏のおたのしみ会「縁日」を行います。紙芝居グランプリ2024で優勝した音次郎さんの紙芝居を皮切りに、おさかなつり、ストラックアウト、お面づくりなど縁日ブースを楽しんでいただく企画です。申込み不要です。対象は幼児から小学生。10時から11時半まで。

★毎月第3金曜日、18時からは「音楽のある図書室」♪演奏していただける方を随時募集しています。少しでも興味がありましたら、職員にお声がけください。お待ちしております。



5月の本棚リレーは高桑美幸さんでした。



「音楽のある図書室」は松崎俊彦さんによるギター演奏とうたでした。